

2-2

地域ネットワーク作りの取り組み

一つの意見が地域に大きな輪と、働く職員に明るさを！

施設間交流

地域への発信

地域包括支援センター 東京都北区浮間さくら

発表者：社会福祉士 関口 久子	共同発表者：生活相談員 新村 雪峰
所在地：東京都北区浮間3-11-26	
TEL：03-3558-3689	E-mail： sakura04@ma.kitanet.ne.jp
FAX：03-3558-7988	URL： http://homepage2.nifty.com/ukimasakurasou/

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	東京都北区浮間さくら荘地域支援センターは、平成19年10月より北区の委託を受け、在宅介護支援センターから再スタート。施設内には、特別養護老人ホーム、通所介護、訪問介護、居宅支援事業所を併設しています。
----------------------------	--

〈取り組んだ課題〉

- 介護保険制度の中、社会福祉法人としての役割は何か。
- 高齢者の方々が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるにはなにかできないか。
- 高齢者の施設で働く職員が、元気にケアを行える環境作りはできないか。
- 困ったことを共有できる仲間を増やすことはできないか。

〈具体的な取り組み〉

- 地域ネットワークの立ち上げ
浮間さくら荘の担当地域には、特養2カ所・老健1カ所・デイサービス8カ所、グループホーム3カ所の計14施設があり、これらの施設に声をかけ会議を開催した。
- 各施設の課題
「単独の施設では、内部研修ができない。いけない。」「施設・職員間の交流がしたい。」「備品購入ができず、困っている。」等の意見がでた。
- 実行委員会方式の採用
実行委員を中心に内容検討をし、毎月、実行委員会を開いた。①3ヶ月に一回会議を開催。②年に2回研修会、職員の交流会も年に2回開催。③物品の貸し出しリストを作成。
- 地域への発信
高齢者、施設の理解を深めるため、地域へのイベントへ参加した。
なお、倫理的配慮に関しては、調査の目的とプライバシーの遵守を依頼時に口頭で約束しています。

〈活動の成果と評価〉

- 合同研修会の開催
年に2回開催。内容は「中間管理職向け研修」と「一般職員対象研修会」。課題に対して共通認識したことや、一般職員は、職員間の交流にもすることができている。
- 施設間交流会
交流会は、研修の後開催するが、交流を通じて、顔が見える関係作りができ、施設間の見学等個人的に交流するなど発展している。
- 地域イベントに参加
地域のイベントに参加し、マップを配布している。高齢者の施設に対して理解が深まった。
- 施設間物品の貸し出し
各施設購入できず困っている物品に対して、「近所づきあい」の気持ちで貸し出しリストを作成し活用。
新たなネットワークの構築を行う。

〈今後の課題〉

- 施設間の交流が深まり、仲間意識が向上したが、今後地域に「高齢者の存在」をどのように浸透させるか。
- 安心して、考える（住み続けられる）街であることへの発展はできる活動にしていくことはできるか。
- 施設間のネットワークのほか、ボランティアの養成を行い地域のネットワークへ発展できないか。
- 高齢者に限らず、児童、障がい者も含む地域ネットワークを作ることにより地域全体を考えていけないか。

【メモ欄】